

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

| | | | |
|---|---------------------------------|-----|----------------------|
| 名 称 | 第10回 第4分科会会議事録 | 場 所 | 新宿区役所第一分庁舎7階 研修室 |
| 日 時 | 平成17年11月5日 午後13時40分～午後16時00分 | 記録者 | 学生補助員 宮野英里子、三好加奈子 |
| | | 区担当 | 企画政策課 熊澤 |
| 出席者： 34名 (区民委員：28名 学識委員：2名 区職員：4名 傍聴：0名) | | | |
| <p>■配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第10回第4分科会会議進行次第 ・第9回 第4分科会会議事録 ・「地域環境通貨による環境と経済の融合プロジェクト」＜プリント5枚＞ (資料提供：早稲田大学環境総合研究センター 永井祐二委員) ・第五回「新宿まちづくり学」講座のお知らせ ・平成17年度 行政評価実施結果報告書 施策評価編＜冊子＞ <p>■会議内容</p> <p>[発言者]●：区民委員 ◎：学識委員 ○：区職員</p> <p>1、開会</p> <p>○：皆さんこんにちは。これより第10回第4分科会を開会いたします。本日の次第がお配りされていると思いますが、その進行次第通りに進めてまいりたいと思います。まず、学識委員の吉野先生からコメントをいただきます。その後、10月28日に開催されましたリーダー会議のご報告と各チームからの情報提供をしていただいた後、グループワークに入り、最後に事務局からの連絡事項で、15:40を目途に進めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、資料確認ですが、「平成17年度 行政評価実施結果報告書 施策評価編」があると思ひます。また、まちづくり学講座のご案内、前回の議事録及びエコマネーの紹介ということで、後ほど情報提供していただく資料があると思ひます。配付資料に漏れのある方はご連絡ください。では、さっそく本日のテーマに入ります。まずはじめに、吉野先生からコメントをいただきたいと思ひます。吉野先生、よろしくお願ひします。</p> <p>2、本日のテーマ</p> <p>☆学識委員からのコメント（吉野学識委員）</p> <p>◎：皆さんこんにちは。さっそく作業に入り、皆さん大変熱心に議論されていると思ひます。いつも感心して見ております。私の方から、ここで若干の中間のコメントをさせていただきたいと思ひます。皆さんのこれからの作業としまして、今、おおむね各分野でいろいろな諸課題が取りまとめられていて、そしていよいよこれからの政策（についての議論）が出てくるところだと思ひます。その後、いろいろな対策が出て、さらにこれを取りまとめて基本構想にふさわしいような</p> | | | |

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

表現、また、何故そのような基本構想の表現になるのか、その辺については、きちっと整理された理論構成が必要になってくることと思います。そういった作業がこれから続くと思いますけれども、これからいろいろな政策を考えていく上で、一つ申し上げておきたいのは、すでに行政の方で様々な施策が出されており、そして取り組まれております。グループによっては、それらについて学習しているところもあると思いますが、もう一度既に配られた区の基本計画、または各部署のパンフレットをご覧になって、漏れがないかどうか、そして発想として利用できるものがないかどうかを確認していただくのがよいのではないかと思います。行政も努力して行なっているわけですから、よい提案がたくさんあると思います。皆さん方にとっては、その既に出されている政策を取り上げることに問題であるわけではないし、よい政策があれば、それを取り上げるのに十分な意義があると思います。既に行政で行なっている基礎の上に立って、さらに修正して、皆さんの考えに従って新しい対策を考えることはよい方法だと思います。ただ、行政の政策は皆さんの目から見ると、また、違った見方で見えると思います。切り口や、何が重点なのか、あるいはその発想が皆さんで違ったものとして再編できるかもしれません。という訳で、もう一度見直していただいて、効率的に今後進めていくためにも、資料の施策に目を通してみるのがよいと思います。

各チームへのアドバイスとして若干感想をお話ししたいと思います。私は皆さんをどこかの方向へ導く役割ではありません。ですから参考にしていただくということでお聞きいただければと思います。

*エコエコ

環境と経済の融合とは非常に難しいテーマですが、議論はよい方向に進んでいきます。もともと環境と経済の融合という考えは、80年代に出てきまして、それらが統合する形で、持続可能な発展が出てきました。いいかえれば、この分野では、持続可能な新宿区、持続の可能性というものを検討するのではないかと思います。環境によいことをすればするほど、経済的にも、経営的にも、生活の面でもメリットが出てくる、そんな仕組みを創ることができるかどうかということがポイントになると思います。私もこのテーマを考えたときに、エコマネーが頭に浮かびました。実際、このグループではこのことに関して、非常に熱心に検討されております。今日も報告があると思いますが、エコマネーを新宿のような大都市で実施しているところはないと思います。そういう意味でも、この大都市・新宿でエコマネーができるようになれば、全国でも話題になりますし、新宿での方針を立派に考えていただけたらと思います。当然、新宿区でエコマネーを行うことになると、いろいろな諸団体の参加が必要となります。できれば消費者、他の区からもいらっしゃる消費者を巻き込んだものを、諸団体と一緒にどのように組み込むことができるのかを検討していただき、また、どのようなときにエコマネーを出すのかなどの仕組みづくりについて、今、流行している持続可能なまちづくりを参考にして考えてみるとよいと思います。さらに地域ブランドというものを一緒に検討されてはいかがでしょうか。

*環境教育

環境教育についてですが、こちらもなかなか難しい問題ですが、小中学校での取組はもちろんのこと、やはり大事な点は、事業者の方々の啓発が大切であると思っております。そこで事業者の

方をどのように啓発していくのか。これはまったくの思いつきですが、新宿区エコツアーのようなものを作ってみたらどうか。商工会議所や商店街から事業者の方を必ず参加していただいて、新宿区のよいところ、場合によっては悪いところ（清掃現場でもかまいません）、あるいは新宿の外に出て東京都の最終処分場なども見てもかまいません、これらも大きな勉強になるのではないかと思います。また、事業者をどのように組織化していくのかを検討するのもよいだろうと思います。

＊温暖化

温暖化の場合には、行政にまだ十分なデータがないという問題があります。何か目標を掲げようとしてもデータがまだまだこれからという状況です。行政にデータを作成させるというのも大切なことだと思います。CO2は90年比6%削減ということですが、中小企商店や中小ビルの電力消費の削減がポイントだと思います。それと同時に高層ビルも、見過ごすことができないと思います。例えば、100本の蛍光灯を100本につき5本減らすとか、そういった一つの目標を立てるのもよろしいのではないのでしょうか。あと、普段使わないバックヤード、場合によって、（あまり電気の使わない場所では）センサーを取りつけることなどもよいでしょうね。行政では、それらに対しどれだけ支援できるのかについては何ともいえませんが、コージェネや小型の風力発電といったものをどのように取りつけていくのか、そのことが考えどころの一つだと思います。もう一つは交通機関ですけれども、基本は公共交通機関をどのように利用してもらうか、これからの21世紀は自転車と公共交通機関となりますから、新宿の交通体系を自転車と公共交通機関にしていくといった発想に立つならば、駅前の自転車置き場を整備することなども必要になります。私も大変憤慨しているのですが、駅前の自転車整備については、あたかも行政が自転車を追い出すかのようにやりますが、それはむしろ自転車を大いに使ってもらうには逆効果となるのであり、その辺がポイントになると思います。

＊資源循環

こちらは、発生抑制と資源循環がポイントになると思いますが、新宿区の場合には7割が事業者ということで、この事業者のごみの発生・抑制をどうするのが大きな課題になるかだと思います。事業者のごみ収集の料金の引き上げが可能なのだろうか、また、それは事業者にどのような影響を与えるのか、そして彼らの了解が得られるのだろうか、その辺を検討したらよいのではないかと思います。同時に新宿区は焼却場を持っておらず、東京都全体からみれば、これ以上焼却炉はいらないということですが、その分、ほかの区の施設で焼却しているわけです。そのままよいのだろうか、他の区の皆さんにも納得していただけるような貢献をすべきではないだろうか。例えば、他の区の資源も回収できる大規模なリサイクルセンターの設置を検討してみてもどうか、また、それは実現可能なのだろうか、リサイクル先進区のシンボルとしてそういうものを考えてみるかどうかと思います。

＜環境と美化＞

環境と美化についてですが、今のどの地域にも通じるミニマム（最低限）の環境基準というものが検討されています。ぜひこの基準を明確にされるとよいと思います。しかし、合わせて、美し

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

く住みやすいということになると、単に良好な生活環境だけでは、新宿区はその地域の魅力が発揮できるとは思いません。プラスαということで、例えば、外国の都市の路地や坂などは、どれをとっても個性が溢れていて素晴らしいと思われるので、よい意味での個性の発揮というものをどこに出していくのか、生活環境の中で、ミニマムの環境基準を満たすだけではなく、その地域の魅力をいかに出していくか、ということについてご検討いただいたらよいのではないかと思います。例えば、生活道路に対して、地域の住民によって、オフィシャルではない道路の名前をつけてもらう、そして場合によっては行政に取り上げてもらい、看板などを立ててもらおうといったことは、同時に地域のコミュニティを作り上げていき、生活の空間の個性を体現していくであろうと思います。名は体を現すということで、新宿区でも、名もなき道路 500 箇所くらいに、住民の手によって名前をつけてもらう。その中で個性が出てくるかもしれません。

＜緑化＞

聞くところによりますと、緑化については中山区長が大変期待しておりまして、できたら原宿のような緑のアーチを大通りに作りたいという意向があるそうです。私もそのような案が大好きですので、実現できればよいと思います。場合によるとそれが大きな起爆剤となって、あちらこちらで緑のアーチを作ろうということになるかもしれません。ただ、それだけではおもしろくありません。緑は百年の計と言われていきますので、この新宿区を森林にしておこうという「新宿区森林構想」というものはいかがでしょうか。これは突拍子もない奇想天外なものですが、百年先のことを考えながら、今の都市機能を活かしつつ、アスファルトは全部はがして、木を植えて、いたるところに木がある、ビルの壁面にはツタがぶら下がり、当然ビルの屋上は緑化されているといった新宿が森林になってしまうという計画です。50 年後には「新宿に森林浴に行こう」というようになったら素晴らしいですね。

そういった発想をもって、これからも考えていただければと思います。

以上で終わります。

- ：吉野先生ありがとうございました。大変夢のあるお話で、ご参考にしていただければと思います。では次に先日行われましたリーダー会議の報告をしていただきます。リーダーの皆さん、お願いします。

☆リーダー会議報告

●：リーダー会議のご報告をいたします。

①各チームからの報告・活動状況

- ・環境と美化：ごみ問題について話し合いを行い、ある程度、案・現状は把握した。今後は、ハード面の話を行っていく。ホームレスの問題・騒音の問題についてなど。
- ・エコエコ：エコマネー（アトム通貨）について主に学習を行った。
- ・環境教育：小学校のビオトープを見学にいき、前回は会議の中で発表をした。
- ・緑化：公園の緑化・街路樹の問題について話し合った。
- ・循環：廃プラスチックの分別について、杉並区の分別の現場を見学に行った。
- ・温暖化：新宿区の温暖化対策について取り上げ、検討している。

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

②中間発表会について（2月19日）

各分科会の内容を分科会ごとにまとめなくてはならない。各チームの結論なり、今まで行ってきたことをまとめて、共通の方向性を持たせたい。

以上が、リーダー会議で話し合ったことです。

☆中間報告会ワーキンググループメンバーの選出

◎：皆さん、こんにちは。10月27日に学識経験者のミーティングを行いました。14名の学識委員全員が出席することはできませんでしたが、各分科会必ず1名は出席するというので、事務局の方で調整した上で行いました。区民会議の要綱で、各分科会からリーダー（世話人）が選出され世話人会が立ち上がるまでの間は、学識経験者が代行するということになっていますので、ミーティングを行わせていただきました。まず、第1～第6分科会の進捗状況について伺いまして、私たちの第4分科会が進んでいると思う面もあれば、他の分科会の方が進んでいる面もありました。他の分科会の進んでいる面については、よいところを吸収していけばよいと思います。

その場でも話題になりましたのが、2月19日の中間報告会に向けて何をすればよいのかということでした。これにつきましては、以前にも私が頭の片隅に入れておいてくださいとお話ししたと思いますが、2月19日は私たち区民会議の委員が主体となって中間発表会を主催し区内外に情報発信をしていくということが重要な役割になると思います。区役所の方々にはご協力いただき、今後ともご支援いただきたいと思います。もう我々は区役所の方から独り立ちしていく段階だと思えます。第1～第6の分科会での進め方はそれぞれ違いますし、どのように区民会議全体を進めていくのかについて、必ずしも各分科会の整合性がとれているわけではありません。例えば第4分科会は、今楽しく話し合いを始めたばかりであり、これから各チームが盛り上がり、意思の疎通ができ始め、ようやくどのように結果を出していくかという議論を始めたばかりであるというのが現状であることを、私が代表して発言させていただきました。無理やり方向性を決めてしまうのは好ましくありません。しかしながら、一方で中間発表の期日は定められていますので、いかにまとめていくのが「大人」の作業になると思っております。

学識経験者のミーティングでの目的は、どのように世話人会を立ち上げるのかということだったのですが、分科会によっては今すぐに世話人を選出することは無理であるという分科会もあります。世話人を選出する際には、各分科会リーダー1名、サブリーダー2名を選出することになっています。そして、世話人会を組織していただき、世話人の方には所属する分科会の意見を述べていただきます。また、他の分科会の意見を聞きつつ、調整していただくというような役割も担っていただきます。これは大変骨の折れる仕事になると思っておりますので、選出された方には多大なご負担がかかることと思われまます。世話人として我々が選出した以上、当然皆さんにもご支援いただきますし、もちろん私たち学識委員もサポートしていきますが、当面は選出された方々にご負担のかかる大変な仕事になると思えます。

ミーティングでは、中間発表会に向けてその役割を担う方々を選出することになりますと、先ほども申し上げましたが、分科会によってはまだ無理であるというご意見もありました。そこで、とりあえず世話人とは別に中間発表会に向けて、プロジェクトチームを作るべきではないだろうかということになりました。各分科会から数名参加していただいて、シンポジウムに向けて企画したり、分科会ごとの発表方法やまとめ方というようなことも含めて考えていただくことに

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

なると思います。例えば私たち第4分科会ですと、図や画像が多くなるのではないかと思います。一方、他の分科会では、理詰めの記事が多いところもあると思います。ということで、それらの発表形式や方法についてプロジェクトチームでまとめていくべきではないかということになりました。もちろん、学識経験者もその中に入りますし、区の方にもお入りいただいて、一緒に進めていき、ある程度議論された後、皆さんにフィードバックして分科会で議論していくという段取りにしてはどうかということになりました。最終的には、世話人を選ぶこととなりますが、まずはプロジェクトチームのメンバーを募ろうということになり、区の方とも相談しまして、11月中にはプロジェクトチームを立ち上げた方がよいのではないかということになりました。また、名称につきましては、仮に「中間発表会ワーキンググループ」（以下、中間発表会WG）といたしました。そこですべて決めていくわけではありませんが、やはり誰かがたたき台を作りそれを示していかないと始まりません。第4分科会としましては、今日、お時間をいただきまして、中間発表会WGのメンバーであるリーダー1名とその方を支えるサブリーダーとして2名の方を募りたいと思いますが、ご異論ある方はいらっしゃいますでしょうか。

（異議なし）

リーダー会議の方からは、何かお話ありますか。

- ：リーダー会議では前々回あたりから、世話人会について考えてきました。

いろいろ検討し考えましたが、皆さんの顔もわからない段階では決めかねるものでしたので、とりあえず、プロジェクトチームに参加していただいて、その後やはりこの人がよいということになれば、その方に引き続き世話人会にも出席していただくということになりました。

一応リーダー会議の中では、内定している方がいらっしゃいます。

- ◎：内定といいますか、プロジェクトチームに入っていて、しばらくご活動いただいて、その方が自他共にやっていただけるようであれば、改めて世話人として入っていただきたいということです。現在、各チームの代表をリーダーと呼んでいますのでややこしくなっていますが、こちらは班長と変えた方がよいかもしれません。

もしどなたからもご意見、ご発言等がないようであれば、リーダー会議で内定している方をリーダー会議の方からお話ししていただきたいと思います。

自薦、他薦等どちらでも結構です。どなたかいらっしゃいませんか。

（発言なし）

では、リーダー会議の方からお願いします。

- ：いらっしゃらないようですので、お話いたします。本当はリーダー会議の中から選出するのがよいと思うのですが、皆さんご都合がつかずに、リーダー以外の方をお願いしようということになり、皆で話し合った結果、温暖化チームの小宮さんが適任ではないかということで、直接お考えを伺いましたところ、快く承諾してくださいましたので、小宮さんを推したいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

- ◎：では小宮さん一言、お願いします。

- （小宮委員）：温暖化チームの小宮です。今ご推薦いただきましたので、ありがたくお受けしたいと思いますが、皆さんはよろしいでしょうか。

（拍手）

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

◎：若干、補足させていただきますと、サブリーダーの方は、リーダーの方が働きやすい方をご指名いただいた方がよろしいと思いますので、そのような形をとらせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なし)

●：それではプロジェクトチームのリーダーとして、小宮さんをお願いしたいと思います。また、サブリーダー2名につきましては、小宮さんにお任せしていますので、ご紹介いただけますか。

●：お話のとおり、私の方でサブリーダー2名をお願いしたいと思います。まず、前回、企業の環境対策の取組をお話していただきました石塚さん、それから私は非常にパソコンなど最新のメディアが苦手ですので、比較的そういう面でごんばってもらえるかと思ひまして、一番若い遠藤さんをお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(拍手)

それではご挨拶ということではありませんが、第4分科会のためにできるだけごんばっていきたく思います。よろしくお願ひいたします。

(拍手)

◎：今日ご出席されていない方につきましては、この決定について事務局から期日を設けて通知していただきまして、ご意見を伺い、それをもって最終的な決定としたいと思います。どうも皆さん、ご協力ありがとうございました。

◎ それから予備情報として持っておいていただきたいのですが、2月19日の中間発表会は最初にシンポジウムをやった場所と同じなのですが、そこは会場が広いので、発表の方法は画面にパソコンで映し出すしか方法がありません。一番それがきれいに見えます。ということはパワーポイントというソフトを使って作っていかなくてはなりません。分科会によっては、区民の方が熱心にパワーポイントを使っているところもありますので、他の分科会の資料ををのぞいたりして少し意識していただければと思います。スキル面についてもリーダー会議の方で考えていきたいと思ひます。以上でございます。長くなりまして恐縮でした。

○：ありがとうございました。リーダーの小宮さん、サブリーダーの石塚さん、遠藤さん、よろしくお願ひいたします。第一回ワーキンググループが11月29日(火)18:30から交流の場で行われますので、できるだけ出席されるようお願いいたします。また、吉田先生からもお話ありましたが、今日出席されなかった方につきましては、事務局の方から、決定事項についてご案内させていただきます、ご異論がある方につきましては、期限を決めてご意見をいただくようにご案内させていただきます。次回には、最終報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

☆エコマネーの紹介(永井委員)

○：それでは、次に各グループからの情報提供としまして、エコエコチームの永井委員より、ご紹介いただきます。

●：エコエコチームの永井でございます。こちらに所属が書いてございますが、早稲田大学の環境総合研究センターというところにおりまして、紙のほうにはエコマネーと書いてあったり、地域通貨と書いてあったり、ここには地域環境通貨と書いてあったりと、いろいろですが、微妙に地域通貨とエコマネーは違うということはあるものの、基本的には同じものとして聞いていただければと思います。こういった地域通貨が環境の問題の解決に使えるのではないかとということで、

ここ5年ほど、こちらにいらっしゃいます吉田先生、また寄本先生とチームを組んで研究をしてきたものでございます。皆さんのお手元にもコピーを配ってございますが、地域通貨というものは、すでにみなさんよく聞いておられると思いますが、もともとは経済恐慌の時代にお金が出回らなくなってお金がしまい込まれると、地域の経済が冷え込んでしまうということがありましたので、そういうときに地域だけで通用するお金を造って、それでお金不足を解決しよう、地域でお金を使えるようにしていきましようという流れで、始まったものでございます。日本でも、江戸時代に藩札みたいな形で、お金が流通した例がありますが、アメリカのニューヨークのそばにあるイサカという都市なのですが、このエリアでの地域通貨である「イサカアワー」が比較的有名なものでございますから、ご紹介させていただきます。ここは3万人くらいの小さな町でして、ニューヨークのそばといいます都会と思われるかもしれませんが、非常に田舎の町です。こちらにはコーネル大学と地域の街がありまして、このエリアでは基本的に大学がありますから、地域の労働力＝学生がいますので、地域の商店街はそういった学生を当て込んでいます。なかなか経済的には厳しいものがありまして、こういった労働力に対して、商店が地域通貨を発行してアルバイトをしてもらい、地域で使えるようにしていくことで、お金が地域の中で滞在し、循環する仕組みとなっています。これにより、地域活性化が図られてまいります。日本ではそういった地域通貨の位置づけを利用して、むしろボランティアにお礼という形で渡す、あるいは商店街の活性化に使っていきましようといったようなプロジェクトが行なわれております。昨年、総務省の補助を受けた3つのプロジェクトが紹介されておりますが、地域通貨を使って環境の問題を解決していきましようという北九州市の「環境パスポート」、あるいは福祉の問題を解決していきましようという市川市のプロジェクト、あるいは地域通貨を使って、都市と田舎の交流を促進していきましようという小国町のプロジェクトが実験されました。話が飛びますが、その地域通貨のプロジェクトは新宿区でもアトム通貨があり、早稲田・高田馬場地区を中心に行なわれています。こちらの方でも商店街を中心に、商店街の清掃活動、地域の清掃活動をしてくれた方に、地域通貨を渡して、それがお店で割引券として利用できます。

あるいは資料にも書いてありますが、エコバックやマイバックを持ってきた時にももらえますし、マイ容器やマイ箸などのプロジェクトに参加した際に差し上げますということで、それもお店で利用できます。商店・地域を挙げてこうした環境活動やまちづくりに使っています。このように、ある地域に限定し、または環境ということに限定して、ある価値を流通させていきましよう、あるいは環境というものを支えていくボランティア等は市場経済からは非常に弱いところですので、そういったものを別の価値体系にして、時間というもので、または相互の信用というものを、通貨の価値基準として取引していきましようということで、私たちの構想が生まれました。環境の問題はこうした地域レベルで考えていける問題であるということが、地域通貨の発想の基本となっています。この発想を反映させて行なったのが、北九州市の「環境パスポート」です。北九州市のプロジェクトなのですが、大学も参加して行なっております。

昨年、1000人規模の実験をいたしました。それで北九州市としては、こういった環境活動のプログラム、資源回収、マイバック、地域清掃に参加した市民にポイントを配って、それが地域で使えるようになると、エコグッズが買えるようなものとなっています。具体的にもう少し見てもみると、地域通貨がもらえるプロジェクトとして、空き缶やペットボトルの回収機投入、新聞などの資源回収に協力、地域のカーシェアリングへの参加、地域清掃への参加によってポイントがも

らえます。こういったように遊び感覚で参加できる環境配慮行動にポイントをあげていく動きや、副次的な効果として地域の清掃に子供たちの参加がみられるようになったものもあります。また、地域で通貨が使えるプログラムとしては、地域の遊休施設・遊園地・環境ミュージアム（博物館）など、なかなか人が参加しない、宣伝がうまくいかずお客さんが入らないといったところに、こうした通貨が使えるということで地域の活性化に繋がっています。環境活動をやることでお得になる、環境活動は一部のオタクの人がやると思われていたので、「オタク」から「オトク」へを合言葉にやっております。また、その中でも特に通貨が使えるプロジェクトとして力を入れているのが、グリーン購入の利用促進でして、リサイクル商品とそのポイントで取替えられるようになっております。北九州市では有料ごみ袋というものを導入いたしまして、全国でも有数の高いゴミ袋になっているそうなのですが、ごみを減量化させるためにごみ袋を有料化したということで、有料ごみ袋の料金が北九州市には入ってくるため、このポイントで購入できるようにしております。

このプロジェクトの特徴としましては、そうして使ったポイント等や活動状況が、通知表と言う形でウェブ上に見られまして、個人行動のバランスが見られたり、活動の成果としてCO2削減量が表示されたりしており、個人の励みになるようにと作られています。参加者全体での表示をするようになっております。これらの裏づけとなっているのがCO2削減量の換算で、大学において研究しておりますLCA（Life Cycle Assessment）の考え方に基づいて計算しております。それぞれの行動がどれだけのCO2の削減につながったかということを示しております。単純に地域通貨というポイントだけでなく、客観的な二酸化炭素としての数値で示してあげることで、こうした市民活動の中にCO2の削減効果ということがあれば、企業を巻き込んでいくことができ、あるいは新しい社会貢献の尺度になっていくのではないかとということで、私どもは研究している次第です。

また、別なプロジェクトなのですが、これは小管村という山梨県の山村なのですが、この地域は過疎化の問題がありまして森林の手入れがなかなかできなくなってしまっています。そこで市民が小管村に対して、例えば環境改善を行なうことでポイントがもらえる、その地域通貨を使って小管村の自然の恵みをもたらえるような繋がりや源流と下流域を繋げていきたいと思いますというプロジェクトも行なわれています。そのなかに流域の企業が経済的支援を行うという流れができないだろうかと点を研究しております。それは、企業の貢献の中にもCO2削減量の換算をうまく取り入れまして、企業のイメージアップに繋がることや、市民に対してもっと具体的に行なわれている印象が持たれるようなプロジェクトにしていきたいと思いますという取組をしております。そういった形で、個人と地域のNPO等の活動、あるいは事業者がうまく共創的な関係で市民の関係を構築していきながら、このプロジェクトが進められていくような仕組みを、私どもは地域通貨を通じて創っていけないかとということで、研究をしております。

こうした中で、行政というのは、生活者、いわゆる市民と企業をプレイヤーとすると、これを環境活動というプラットフォームの中で、うまく繋いでいくコーディネーターとして動けるのではないかと考えられます。北九州市では特にこうした観点から、行政の方が力を入れて、この環境活動のプラットフォームを構築しております。そういう意味で今回、この地域通貨を通じまして、気軽に活動に参加できるごみやまち美化といった問題、単独では経済的にも厳しい資源循環などの問題に関しましても、地域通貨という同じ土俵の上で、解決できるような環境母体というものを

複合的に考えていかななくてはならないということで、環境活動のプラットフォームを行政の方で提供し、あるいは市民も求めていきたいと思いますという動きもございます。最後のところに、新宿区で行うとしたらということで付けさせていただいたのですが、これも一例でしかないのですが、先ほどは北九州市特有のプログラムを市民の皆さんが考えて創り出した地域通貨です。新宿区においては、新宿区なりのおもしろいプロジェクトが考えられるのではないかと考えております。吉野先生のお話にもありましたが、昼間区民、つまり昼間に来る方・お勤めにくる方が気軽に参加できるプロジェクトをたくさん作ったらどうか、また、人工密集地ということも考慮して、並ばなくてもすぐにものが買えるなどプログラムは、お金を要するものではありませんので、何か優先的に参加できるようなプログラムを考え、事業者等を巻き込んでいくようなものと考えていければ、一つひとつではうまくいかないことも総合的に取り組んでいけるのではないかと考えております。このようなことで、ご紹介させていただきました。

◎：ありがとうございます。環境通貨とか地域通貨とかいろんな言い方があるということでしたが、当初は加藤敏春氏という経済産業省出身の学者の方がいらっしゃるのですが、加藤先生がエコマネーを始めたということです。始まりは世界大恐慌の時代から使われていて、社会政策の一部として利用されていたといわれています。それが、日本ではどちらかというと、お互いに助け合うという観点から考えられています。神奈川県大和市の「LOVE」や宝塚市の「ヅカ」やドラえもん「ドラ」という通貨など、いろいろユニークなものを市民や行政は考えて行っているということです。これを、環境活動に繋げていけないかということと、あくまでも通貨ですから、それを回すことで、なんらかの価値を見出すことに意味がありますので、企業の方たちにどのように参加していただくか、企業の方は社会貢献ということで参加されるかもしれませんが、それがコストではなく利益として繋がるという観点で入っていただくことが大事なのではないかと思えます。これをエコエコチームを中心に区民会議の中から発信できればと思います。以上です。

○：ありがとうございます。大変参考になるお話でした。ご質問等をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎：質問してもよろしいでしょうか。北九州市のプロジェクトですが、市民の方はどれくらい参加されて、中心になった市民はどのような方たちなのか、ご紹介をお願いします。

●：北九州市の場合は、行政がやっているようにみせかけて、実は地域の NPO の方たちが中心となっております。地域ですでに環境活動を行なっている人を中心にやっております。もともと北九州市は NPO の活動が盛んでして、横のつながりの中で検討しながら、この動きを創ってきた、それに行政が追いかける形でやってきているということです。北九州市の NPO は行政からお金をもらうのが上手いらしいので、そういったセンスもあって実現したのではないかと思います。今回は実験段階でしたので、参加人数は 1200 人になっていますが、今後段階的に 10 万人規模にしたいということです。

○：永井委員ありがとうございます。次に進行次第によりますと、各チームから視察報告の予定でしたが、時間が押している関係上、次回に回させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。ご異論がなければそのようにさせていただきたいと思いますが、では、グループワークに入らせていただきます。

☆グループワーク（約1時間）

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

各グループで議論。

☆グループ発表

＜エコエコチーム＞

①本日の検討テーマ

- ・エコマネーについて
- ・エコマネー以外のアイデア

②検討内容と結果

- ・地域ファンドーグリーン証書－ESCO を結びつける。
- ・商店街全体としての ESCO

※（補足）ESCOとは、ESCO(Energy Service Company)の略で、この事業は、お客に対し省エネルギーのための提案やシステム導入を行い、施設全体のエネルギーサービスを提供するビジネス。

- ・商店街のブロックごと、または地域（商店以外の企業も含む）ごとのコンテストを行なう。（CO2の削減率）

＊省エネ

＊マイバック

＊廃棄物

＊扱い商品

＊物流

等で評価の基準を定め、削減率で競争

③次回までの目標と課題

特になし

＜資源循環チーム＞

①本日の検討テーマ

廃プラスチックの分別収集について

②検討内容と結果

新宿区で廃プラスチック収集を行なう場合の課題

（杉並区の分別収集の場合、品目ごとに回収車がくる→新宿区内では不可能）

- ・集積所
- ・収集者と収集車
- ・圧縮施設

③次回までの目標と課題

集団回収の見直し

＜環境教育・学習チーム＞

①本日の検討テーマ

意識調査の結果から、区民のみどり・水辺への関心の強さが分かり、その点を含めて話

し合った

②検討内容と結果

前回、落合フィールド調査から、区内のツアーが必要ではないか、知ることによって、自分の住んでいる地域の特徴がわかり、どういう地域にしていきたいか、話し合っていくことによって、区民の街意識が育つのではないか。落合には、錦松梅の東京工場もあり、企業も取り込んでの街の整備、特徴のある街のツアーも楽しいのでは。

子供の学校教育で、小学校の時だけでなく、中学校でも環境教育の一環として（例）水の再生センター・ごみ集積所不燃ごみ中継所など、生活に密着した施設を見学してほしい。子供たちの体験が原体験となって将来かならず、自分自身の環境に関心をもつ大人に育ててゆくのを期待している。

③次回までの目標と課題

本日の出席者が針生・平井の2人のため、次回については未定。

<温暖化チーム>

①本日の検討テーマ

エコアクションへのヒアリング内容を考える。

②検討内容と結果

・ヒアリングの目的

＊家庭・事業者が継続的にとりくむためのプログラムを検討するため。

・質問事項

・登録世帯の動向・取り組み状況

＊脱落世帯

＊一年経過後のステップ2での取組、認定証受領後のアドバイスとはどのようにするのか。

・流れ

＊犬塚氏を中心にヒアリング。

＊質問シートを提出する→聞く。

③次回までの目標と課題

・ヒアリングをする。

・ヒアリング事項を考える。

次々回はヒアリング内容を踏まえ、新宿版エコアクションを考える。

<環境と美化チーム>

①本日の検討テーマ

1、道路の使い方

2、(路上の) ゴミ箱

3、公園の使い方

②検討内容と結果

1、自転車専用道路を作る(車道・歩道)。オートバイについても配慮を。

新宿区民会議＜第4分科会会議概要＞

(道路は自動車だけのものである。生活道路に車が介入しないよう。)

2、ゴミ箱は路上に設置してもよいのでは。

3、ホームレスが多いところなどは、ミニ森林公園化。多目的であってよい。

③次回までの目標と課題

電柱・自販機・防犯の問題

<緑化チーム>

①本日の検討テーマ

- ・公園の管理・運営について・・・各場所の公園によって管理が様々。
- ・街路樹と植え込みをどのように考えるか(都道・区道)

②検討内容と結果

- ・西戸山公園の整備(現在工事中だが、その後はどのようなようになるのか)。
- ・小さな公園でも遊具が必要。
- ・公園のベンチ(ホームレス対策・・・長いすはだめ)。
- ・街路樹・植え込みを個人で利用しているのか。あるのか。今後の方針はどうするか。看板・自転車・商品の歩道上の占有(区でも対策に苦慮している。)

③次回までの目標と課題

緑にからめたことで考えていきたい。

3、事務局からの連絡事項

(1) 次回以降の会議日程について

| | | | |
|------|-----------|-------------|---------------|
| 第11回 | 11月25日(金) | 18:30~20:30 | 区役所第一分庁舎7階研修室 |
| 第12回 | 12月9日(金) | 18:30~20:30 | 区役所第一分庁舎7階研修室 |
| 第13回 | 12月23日(金) | 13:30~15:30 | 区役所第一分庁舎7階研修室 |
| 第14回 | 1月13日(金) | 18:30~20:30 | 区役所第一分庁舎7階研修室 |
| 第15回 | 1月27日(金) | 18:30~20:30 | 未定 |

(2) 第5回まちづくり学講座

11月28日(月) 18:30~ 早稲田大学国際会議場

テーマ:産業・文化・観光

(3) 次回のリーダー会議

11月11日(金) 18:00~ 新宿区役所 地下一階交流の場

(4) 各チームからの連絡事項

11月8日(火) 13:30~高田馬場のリサイクル活動センターで、家庭ごみの有料化についての学習会を開催。